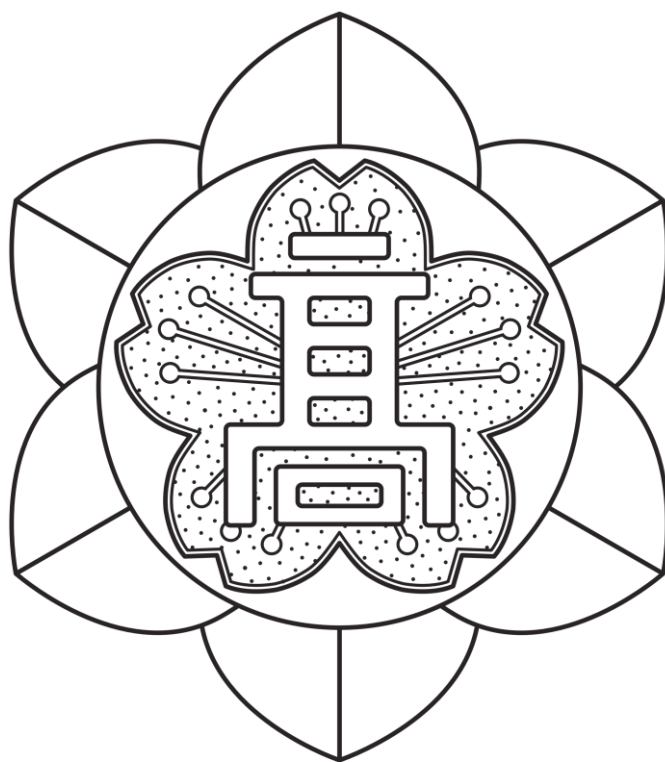


令和7年度
第1学年用シラバス



静岡県立清水東高等学校
定時制の課程

教科	科目	単位数	履修学年
国語	現代の国語	2	1 年

使用教科書	副教材等
新編 現代の国語（大修館書店）	なし

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準
①〔知識・技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関すること ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。 ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 (2) 情報の扱い方に関すること ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ウ 推論の仕方を理解し使うことができる。

エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。

オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。

(3) 我が国の言語文化に関すること

ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。

②〔思考・判断・表現〕

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。

イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。

ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。

エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。

B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

C 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。

イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				
			①	②			③
				A	B	C	
4	ことばをひらく	ことばの学びに向けて（「変わる」ことを楽しもう、コミュニケーションは技術だ）	(1) エ			ア	○
		ことばの準備体操	(1) ア・ウ	ウ			○
5	日本語を使いこなす	ことばの使い分け/正しく書こう	(1) イ・エ		ウ		○
		文を整え、文をつなぐ	(1) オ		ウ		○
		伝わるように話そう	(1) オ	イ			○

6	わかりやすく説明する	説明のしかたをとらえよう（人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか／ナンバーワンか、オンリーワンか／生きることと食べることの意味）	(2) イ			ア	○
		絵や写真を説明しよう／料理レシピを書こう	(1) オ		イ		○
		ショートスピーチをしよう	(1) オ	ア			○
7	聞く力を育む	聞き取りのレッスン ミニインタビューをしよう	(1) イ	エ			○
		聞き取ったことをまとめよう	(1) エ		エ		○
9	論理を読み取る	論理の展開を読み取ろう オカピの胃袋はいくつか／商品と贈り物の違い／水の東西	(2) ア			ア	○
		読書の広場 極北へ／ももこのいきもの図鑑／宇宙人はいますか？／鉄を削る／本のPOPを作ろう	(3)		ア		○
10	伝え合いのレッスン	対話のレッスン	(1) イ	ウ			○
		テーマを決めて話し合おう	(2) ア	オ			○
11	説得力を高める	意見文の基礎を学ぼう	(2) ア		イ		○
		反対意見を想定した意見文を書こう	(2) ウ		ウ		○
		ミニ討論会をしよう	(2) ア	オ			
12	情報と向き合う	情報を吟味しながら読もう（情報の力関係／世界は私にほほえんでいる／どこもかしこもプラスチック！）	(2) エ			イ	○
		レポートを書こう	(2) オ		ウ		○
1	他者を動かす	魅力的な企画書を書こう	(1) エ		イ		○
		プレゼンテーションをしよう	(1) オ	ウ			○
		相手を動かす依頼状を書こう	(1) エ		ウ		○
2	社会に目を向けて	自分の考えを深めながら読もう（何のために「働く」のか／自分の考えをつくるために）	(1) カ			イ	○

教科	科目	単位数	履修学年
国語	言語文化	2	1 年

使用教科書	副教材等
新編 言語文化（大修館書店）	なし

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準
①〔知識・技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関すること ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 （２）我が国の言語文化に関すること ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。

エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
オ	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。
カ	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。
②〔思考・判断・表現〕	
A 書くこと	
ア	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。
イ	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。
B 読むこと	
ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
イ	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。
ウ	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。
エ	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。
オ	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもって
	いる。

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				
			①	②			③
				A	B	古典	
4	ことばと出会う	言葉の森を育てよう	(1) ア		ア		○
		季節の言葉と出会う	(1) ア		イ		○
		漢字と仮名の使い分け	(1) ウ		ウ		○
5	表現を味わう	水かまきり/とんかつ	(1) エ		ウ		○
		(読書の広場) 一瞬の風になれ/鏡	(2) カ		ウ		○
6	古典に親しむ	古典への招待/いろはうた ◆参考 いろはカルタの世界/古文冒頭選	(1) ア (2) エ		ウ	○	○
		児のそら寝/十二の「子」文字	(2) ア・ウ		ア	○	○
		阿蘇の史、盗人にあひてのがるること	(2) ウ		イ	○	○
	随筆を楽しむ	徒然草 高名の木登り／奥山に猫またといふもの／神無月のころ	(2) ウ		ア	○	○
		枕草子 春はあけぼの／うつくしきもの／にくきもの	(2) ウ		イ	○	○
7	漢文に親しむ	訓読のきまり／格言／再読文字	(2) ア・ウ		オ	○	○
	文化を見つめる	足し算の文化	(2) ア		ア		○
		ほどほどのデザイン	(1) ウ		ア		○

9	現代に生きることば	守株/五十歩百歩/蛇足/借虎威	(2) ウ		ア	○	○
	物語を受け継ぐ	羅生門	(1) イ・エ		エ		○
		羅生門・続きの創作	(1) ウ	イ			○
10	物語の広がり	伊勢物語 芥川／筒井筒／あづま下り	(2) ウ		ア	○	○
		平家物語 木曾の最期	(2) オ		ウ	○	○
11	ことばと生きる	祖母が笑うということ/ことばは光/コルベ神父	(1) エ		ウ		○
	古人に学ぶ	論語 学問のすすめ／社会に生きる	(2) ウ		オ	○	○
12	旅への思い	土佐日記(門出／旅の終わり)更級日記 (あこがれ)	(2) イ		エ	○	○
1	旅への思い	平家物語(木曾の最期)	(2) オ		ウ	○	○
	近代文学に触れる	夢十夜	(1) エ		ウ		○
形 ◆参考『常山紀談』松山新介の勇将 中村新兵衛が事		(1) エ		エ		○	
2	漢文を楽しむ	完璧/鶏鳴狗盗	(2) エ		ア	○	○
		人面桃花	(2) カ		ウ	○	○
	詩歌の調べ	春のうた／夏のうた／秋のうた／冬のうた	(1) オ	ア			○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	歴史総合	2	1 年

使用教科書	副教材等
歴史総合（実教出版）	新詳高等地図（帝国書院）

科目の目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する。 （１）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 （２）近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （３）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を持ち、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚することができる。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動	・近代化に関する資料を活用することで、近代化に伴う生活や社会の変容について、多面的・多角的に考察できる。	○	○	○
5		第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場が形成していく過程を説明できる。	○	○	○
6		第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	・19世紀後半の欧米諸国の政治活動の特徴を理解した上で、日本に与えた影響について、多面的・多角的に考察できる。	○	○	○
7		第4章 帝国主義の時代	・国民国家の形成の背景や影響を理解し、政治変革の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察できる。	○	○	○
9			・帝国主義政策の背景や、その政策がアジア・アフリカ諸国へ与えた影響について、地域の動向を比較し、説明できる。			
10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦前後の社会変化を、日本とその他諸国の動向を比較・関連させることで、多面的・多角的に考察できる。	○	○	○
11			・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、教育の普及とマスメディアの発達などを基に大衆社会の形成と社会運動の広がりについて、説明できる。			
		第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などから、国際協調体制の動揺を説明できる。	○	○	○
			・国際秩序や政治体制の変化に着目し、経済危機の背景と影響について、多面的・多角的に考察的できる。			
12	第3編 グローバル化と私たち	第7章 冷戦と脱植民地化	・冷戦の展開や戦中及び戦後を通じたアジア各国の独立運動と旧宗主国などとの関係を考察し、冷戦の始まりと第二次世界大戦の国際秩序の形成過程について説明できる。	○	○	○
1		第8章 多極化する世界	・アジア諸地域の経済発展の背景や経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼす影響について、多面的・多角的に考察できる。	○	○	○
2		第9章 グローバル化と現代世界	・近現代の歴史を理解し、現代世界で進むグローバル化の進展が、私たちの生活に与える影響について、多面的・多角的に考察できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
数学	数学Ⅰ①	2	1年

使用教科書	副教材等
新 高校の数学Ⅰ（数研出版）	なし

科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	・授業への取り組み ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み ・自己評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	中学校の復習	正の数・負の数 式の計算 方程式 関数	正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができる。	○		
5			具体的な場面で、正の数・負の数を用いて表現したり、処理したりできる。		○	
			文字を使って、数量や数量の関係などを式に表し、文字の必要性和意味を理解している。	○		
			文字を使って式に表したり、文字に値を代入して式の値を求めたりして、文字式の理解を深めている。		○	
6			数量の関係を等式や不等式に表すことができる。	○		
			等式の性質を利用して、方程式を解くことができる。	○		
7			方程式を問題解決に利用することができる。		○	
			関数の意味を理解している。	○		
			具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に着目して、その変化や対応の様子を考察している。		○	
			数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
9	1章 数と式 1節 数と式の計算	計算の基本 単項式と多項式 多項式の加法と減法 多項式の乗法 展開の公式 因数分解 展開、因数分解の工夫 根号を含む式の計算 実数	文字を使った式の表し方の約束を確認し、文字式の扱い方を理解している。	○		
10			2次式の展開の公式、及び因数分解の公式の理解を深めている。	○		
			問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的にとらえたり目的に応じて適切に変形したりできる。		○	
			数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。	○		
11	2節 1次不等式	1次方程式 不等式 不等式の解	不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。	○		
12			日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用できる。		○	
			数と式について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
1	2章 2次関数 1節 2次関数のグラフ	関数 1次関数のグラフ 2次関数のグラフ	関数の概念を理解している。	○		
2			1次関数、及び2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。	○		
			1次関数、及び2次関数の式とグラフとの関係について考察している。		○	
2	2節 2次関数の値の変化	2次関数の最大値、最小値 グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	2次関数の最大値や最小値を求めることができる。	○		
			2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係を考察している。		○	
			2次関数について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○

※第3章以降については次年度の数学Iで行う。

教科	科目	単位数	履修学年
理科	科学と人間生活	2	1 年

使用教科書	副教材等
科学と人間生活（数研出版）	なし

科目の目標 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 （３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深めている。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	・テスト ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。 ・科学に対する興味・関心を高めようとしている。	・取り組みの観察 ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	科学技術の発展	序編 科学技術の発展 人間生活の歴史	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。	○		
			科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。		○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
5	材料とその再利用	第1編 物質の科学 第1章 材料とその再利用 ①金属と人間生活 ②身のまわりの金属と製錬 ③金属のさびとその防止 ④プラスチックとその性質 ⑤プラスチックの成り立ち ⑥さまざまなプラスチック ⑦資源の再利用	身近な金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。	○	○	
6				○	○	
7					○	○
9	微生物とその利用	第2章 微生物とその利用 ①身のまわりの微生物 ②微生物とその発見の歴史 ③発酵食品への微生物の利用 ④乳酸発酵とアルコール発酵 ⑤医療品への微生物の利用 ⑥生態系における微生物 ⑦環境の浄化と微生物	微生物の働きを人間生活と関連付けて理解している。	○		
10				○	○	
				○	○	○
11	光の性質とその利用	第3編 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 ①光の色 ②光の直進と反射 ③光の屈折と全反射 ④光の分散と錯乱 ⑤光の回折と干渉 ⑥電磁波 ⑦電磁波の利用	光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解している。	○		
12				○	○	○
				○	○	
1	自然景観と自然災害	第2章 自然景観と自然災害 ①日本列島とプレート ②地震のしくみと地震活動 ③地震による災害 ④マグマがつくる火山と景観 ⑤火山がもたらす恵みと災害 ⑥水のはたらきと自然景観 ⑦土砂災害と洪水	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解している。	○	○	
2				○	○	
				○	○	○
	これからの科学と人間生活	終編 これからの科学と人間生活 課題研究の進め方 課題研究	これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めることができる。	○		
			これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。		○	

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	体育 1 年	4	1 年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （３）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルールの確認テスト、リーグ戦等の試合、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	行動の観察、確認（グループ活動及び集団行動の姿勢、安全への意識、授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐしの運動 新体力テストに向けた 補強運動)	定期的な運動の継続は、心身の健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			様々な運動を行うことを通して、自身の体について気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型 (バドミントン、バレーボール、卓球、ソフトテニスから 1 つ選択)	バドミントンにおける技術や戦術、作戦には名称がありそれらを実行する際のポイントについて説明できる。	○		
			シングルスやダブルスなど役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			バドミントンにおける合理的な動きと自他の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。		○	
6			バドミントンに自主的に取り組もうとしている。(用具やコートを用意など)			○
7	体育理論	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展	スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代スポーツの意義や価値について理解している。	○		
			スポーツが自身や環境にもたらす影響について理解し、その課題を発見している。		○	
			グループワーク等において、意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○
9	陸上競技	短距離走 (新体力テスト含)	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
			合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。	○		
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合うことができる。			○
10	球技	ゴール型 (サッカー、バスケットボール、アルティメットから 1 つ選択)	サッカーにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。(用具・コート準備含)			○
11						

12	球技	ベースボール型 (ソフトボール)	状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。	○		
			チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。(用具・コート準備含)			○
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	○		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。			○
2	体育理論	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展	スポーツの経済的効果と高潔さ、スポーツが環境や社会にもたらす影響について理解している。	○		
			自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見することができる。		○	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	保健①	1	1 年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 （１）個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 （２）健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 （３）生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（定期テスト、応急手当のスキルテスト、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、定期テスト、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	行動の観察、確認（グループ活動、提出物及び授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				③	②	③
4	現代社会と健康	1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた	健康についての様々な考え方、その要因について理解している。 健康の考え方は、国民の健康水準や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解している。		○	○
5		3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復	生活習慣病と関連の深い日常の生活行動について理解し、予防能力に結びつけて考えることができる。	○	○	○

6		6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康	適度な運動と確かな休養が健康を促進するメカニズムと食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があることを理解している。 食事の重要性について理解し、健康的な食生活に結びつけて考えることができる。 適度な運動と確かな休養が健康を促進するメカニズムと食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践できる。		○	○
7		9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	喫煙の健康被害について理解している。 飲酒の健康被害や生活習慣病の要因になることを理解している。 薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えること、「絶対に」行ってはならないことを理解している。	○	○	
9		12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	現代における代表的な精神疾患とその原因について理解している。 精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図る努力が重要であることを理解している。	○		○
10		15. 感染症とその予防 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防	感染のメカニズムと個人的および社会的な対策の必要について理解している。	○	○	
11		18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり	健康に関する意思決定や行動選択の重要性について理解している。		○	○
12	安全な社会生活	1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全	交通事故の現状、交通社会に必要な資質と責任、安全な社会づくりと関わりについて理解している。	○	○	
1 2		4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法	応急手当の意義と方法について理解している。 日常的な応急手当、心肺蘇生法について理解している。 心肺蘇生法等の応急手当の考え方を理解し、速やかに行うことができる。	○	○	○

外国語科 年間指導計画

教科	科目	単位数	履修学年
外国語	英語コミュニケーション I	3	1 年

使用教科書	副教材等
Amity English Communication I （開隆堂）	なし

科目の目標
英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第 1 款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第 1 款の（3）に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその評価規準	
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価 場面	評価 方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN-DO	ID										
		領域	NO	記号									
4	1	I	②		A1	日常的な話題（景色）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知 思 態	知 思 態	知 思 態			授・定・他	PT/PFT
5	2	W	②		A1	日常的な話題（友情・親切心）について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。	知 思 態	知 思 態			知 思 態	授・定・他	PT/PFT
6 7	3 4	P	③		A1	社会的な話題（文化としてのダンス、絶滅危惧種）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知 思 態	知 思 態		知 思 態		授・定・他	PT/PFT
9	5	I	③		A1	社会的な話題（チョコレートの歴史）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知 思 態	知 思 態	知 思 態			授・定・他	PT/PFT
10	6	P	③		A1	社会的な話題（様々な高校の特徴）について、自分の考えを聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知 思 態	知 思 態		知 思 態		授・定・他	PT/PFT
11 12	7 8	I	1		A1	社会的な話題（偶然から生まれた偉大な発明、コンゴのスーツ）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知 思 態	知 思 態	知 思 態			授・定・他	PT/PFT
1	9	I	1		A1	社会的な話題（特殊メイクの技術）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知 思 態	知 思 態	知 思 態			授・定・他	PT/PFT
2	10	W	③		A1	社会的な話題（安全な飲料水）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して書いて伝えあうことができる。	知 思 態	知 思 態			知 思 態	授・定・他	PT/PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）
※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄